

May, 2026

JFA GROWTH STRATEGY 2026-2031

—サッカーで未来をつくる—

JFA成長戦略 2026-2031

Japan Football Association

JFA



DREAM
夢があるから強くなる



日本は今、少子高齢化の進行に伴い、子どもの体力低下や運動習慣の喪失、地域コミュニティの希薄化、健康寿命の確保など、**さまざまな課題**に直面しています。

こうした中で、サッカーは単なる競技を超え、人と人をつなぎ、心と体を元気にし、社会を前に進める力になることが期待されています。

公益法人である日本サッカー協会(JFA)は、「**サッカーの価値を社会に広げていく統括団体として、**サッカーを『見たい・したい』という人々の願いに応えるだけでなく、**不特定多数の人々の幸せや、持続可能な社会の実現に貢献する**」という使命を担っています。

サッカーは、「子どもの健全な成長と学びの場づくり」「高齢者を含む多世代の健康づくり」「男女共同参画や多様性の尊重」「地域の絆を深める場の創出」「災害時の支え合い」など、私たちの暮らしに根ざした役割を果たすことができます。

また、全国で楽しまれているサッカーは、地域クラブやスタジアムを中心に、人々の誇りやつながりを育み、交流人口や関係人口を広げることで、地域の元気を支えます。

さらに、世界で最も愛されるスポーツの一つであるサッカーは、国際大会や交流を通じて異文化を理解し合い、日本の魅力を世界に届ける懸け橋ともなります。

だからこそJFAは、競技の強化や普及にとどまらず、

サッカーを社会課題解決のインフラとして活用し、未来にわたって愛される持続可能なスポーツ文化を築くため、成長戦略を描く必要があります。

この成長戦略は、JFAだけでなく、サッカー界全体の力を結集し、

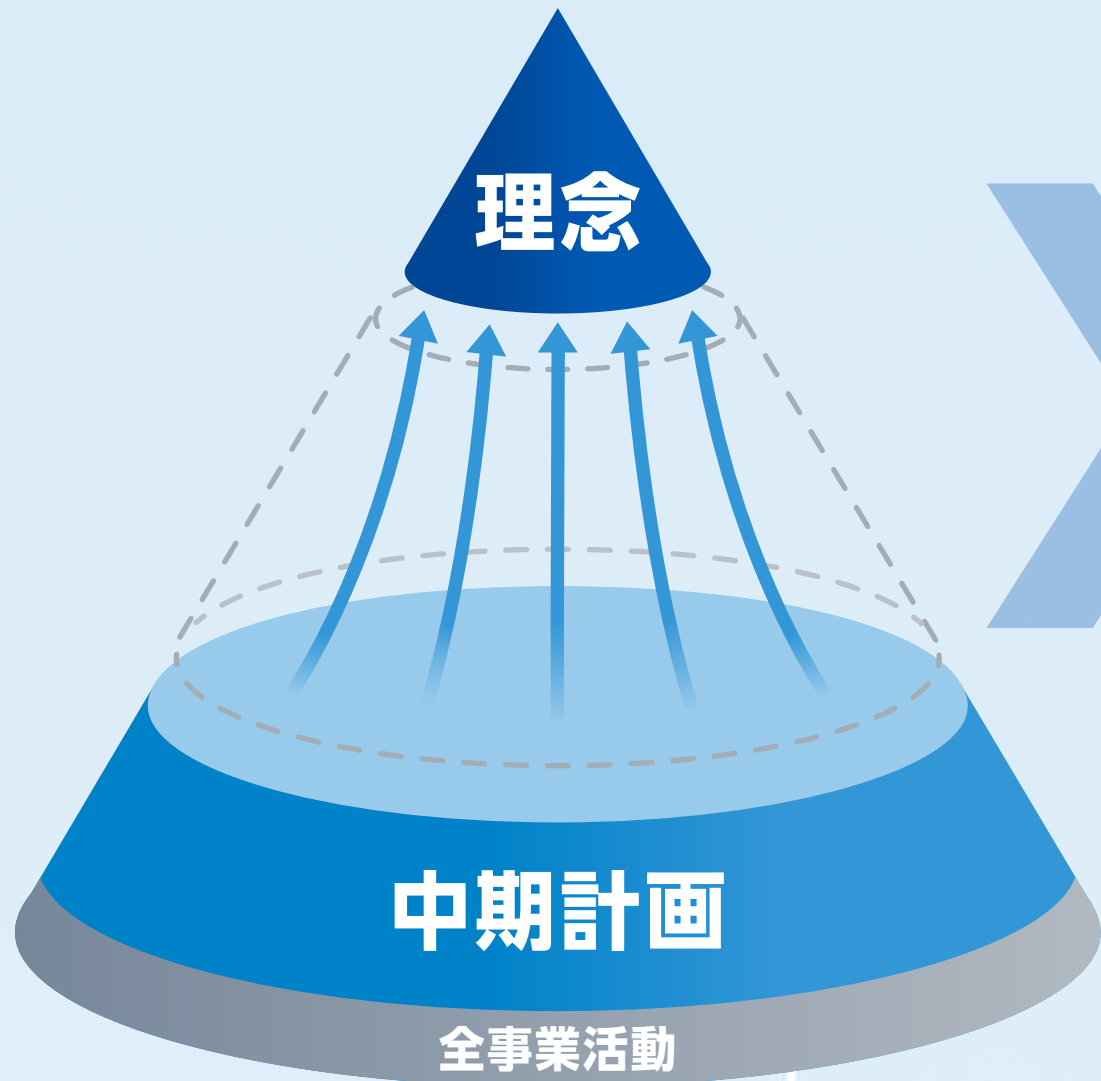
時代の変化に柔軟に対応しながら前に進むための共通の道しるべとなります。

サッカーを、暮らしに根づく文化として、そして社会を支えるインフラとして育てていく——。この成長戦略が、その第一歩となります。

日本サッカー協会(JFA) 会長

宮本恒靖

[現在]



[2026-2031]

大局的な中長期戦略を持つ



*2027年に再度リリース予定

DREAM

夢があるから強くなる

私たちには大きな**夢**がある

JFAの約束2050 >>>

強化目標 FIFAワールドカップで**優勝**する
(日本でFIFAワールドカップを開催)

普及目標 サッカーファミリーが**1,000万人**になる

JFAを取り巻く環境には

多くの問題・課題がある

スポーツ界やサッカー界が
抱える問題

熱中症



暴力・暴言



部活動の地域連携



FIFAワールドカップ優勝



女子サッカー
発展



登録者の
維持・増加



経済的格差



ジェンダー格差



リスペクト啓発



定常収支バランス



JFAの抱える課題

地球・社会問題も他人事ではなく
JFAの抱える課題に影響 する

地球環境

資源枯渇



気候変動



日本社会

少子高齢化



孤独・孤立



環境汚染



生物多様性
損失



社会保険料
負担増加



物価高騰



スポーツ界/サッカー界



この困難を 成長の好機に 変える

多面的な社会的価値を持つスポーツ・
サッカーだからこそできる——

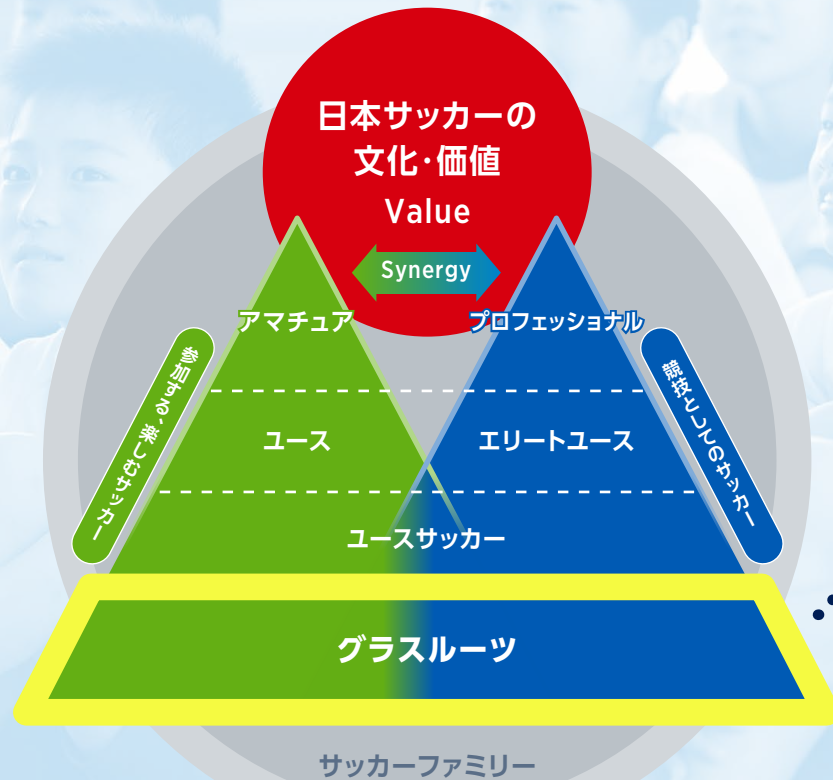



サッカーで**未来**をつくる



未来をつくる“子ども”を取り巻く環境には

多くの解決すべき問題がある



A man in a black tracksuit and red sneakers is high-fiving a child on a soccer field. The man is smiling and looking towards the child. The background shows a green soccer field with blue cones and a blue stadium seating area. A large blue diagonal shape is overlaid on the left side of the image, containing white and yellow text.

未来を担う子どもたちに、
今より良い状態で
サッカー環境をつなぐ

成長戦略の BIG GOAL

①

競技面での成果



②

女子サッカーの拡大



③

社会的価値の創出

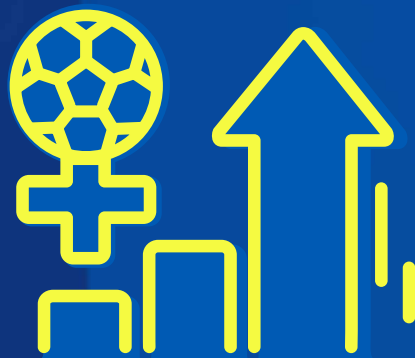


成長戦略のBIG GOAL

① 競技面での成果



② 女子サッカーの拡大



③ 社会的価値の創出



相互循環することで「商業的価値」が高まる

投資財源の拡大

財政規模

300億円 (2025年度支出
約233億円)



収支均衡

±0億円

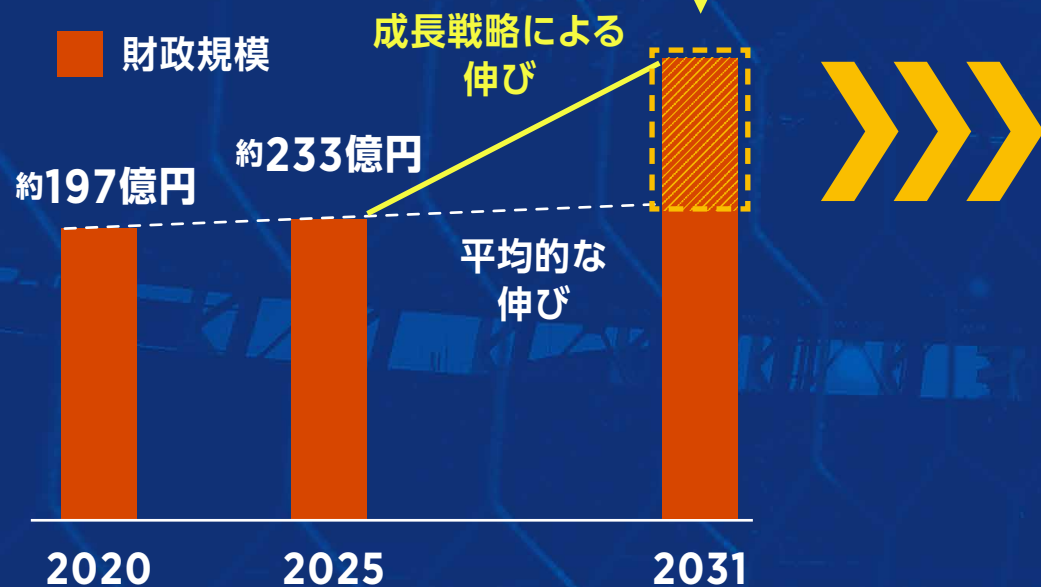
※収入超過分は全て
公益事業へ還元



“サッカーで未来をつくる”ために 公益事業へ さらなる還元を行う



財政規模
300億円



“成長”の加速



代表強化



ユース育成



女子サッカー普及



指導者・審判員養成



国際大会招致・開催



デジタル推進



サステナビリティ活動

など

【参考値】



イングランド
約1020億円



スペイン
約690億円



フランス
550億円

海外サッカー協会の財政規模

*数値は2025年度 1£=200円、1€=185円で換算

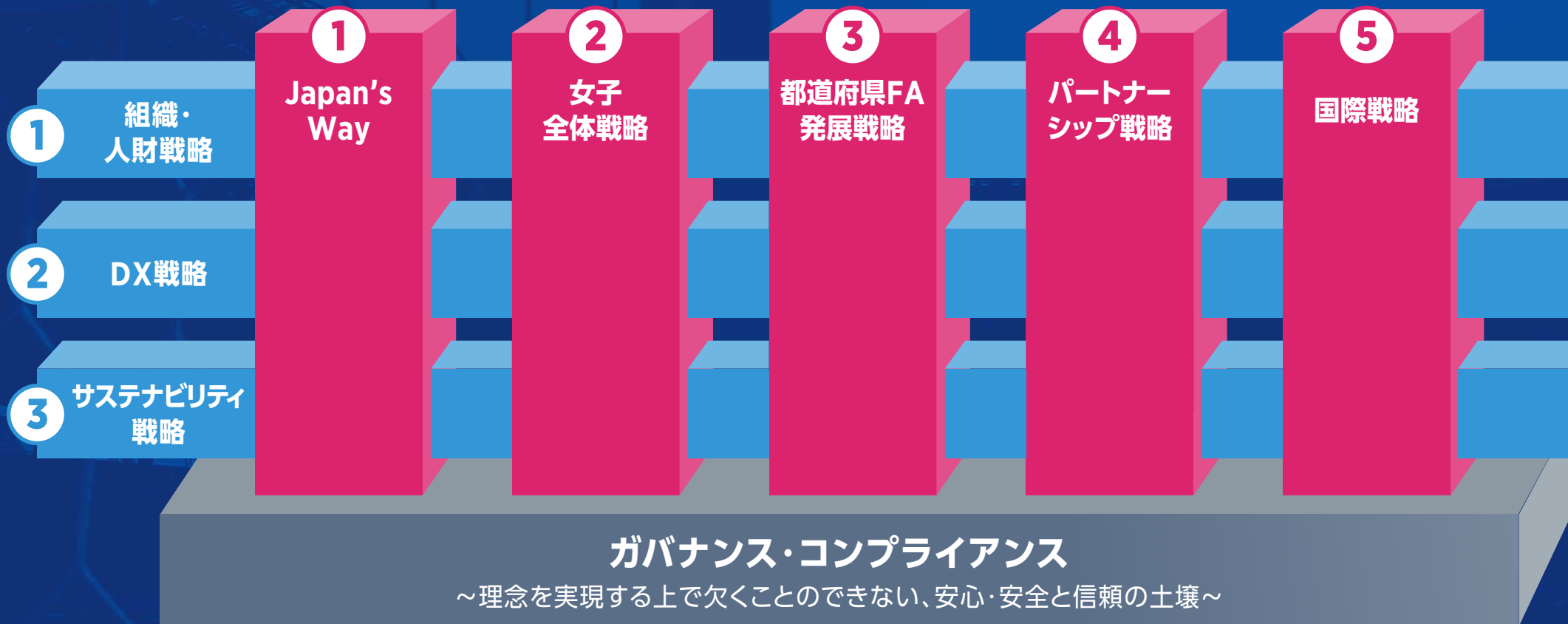
成長戦略のBIG GOAL

- ① 競技面での成果
- ② 女子サッカーの拡大
- ③ 社会的価値の創出



成長戦略の柱

成長戦略の梁



連携



成長戦略のBIG GOAL

- ① 競技面での成果 ② 女子サッカーの拡大 ③ 社会的価値の創出



成長戦略の柱

1

Japan's Way

ダブルピラミッドで
世界一幸せな国へ

2

女子 全体戦略

サッカー界ALLで
女子サッカーを発展

3

都道府県FA 発展戦略

各都道府県
サッカー協会(FA)の
経営基盤をサポート

4

パートナー シップ戦略

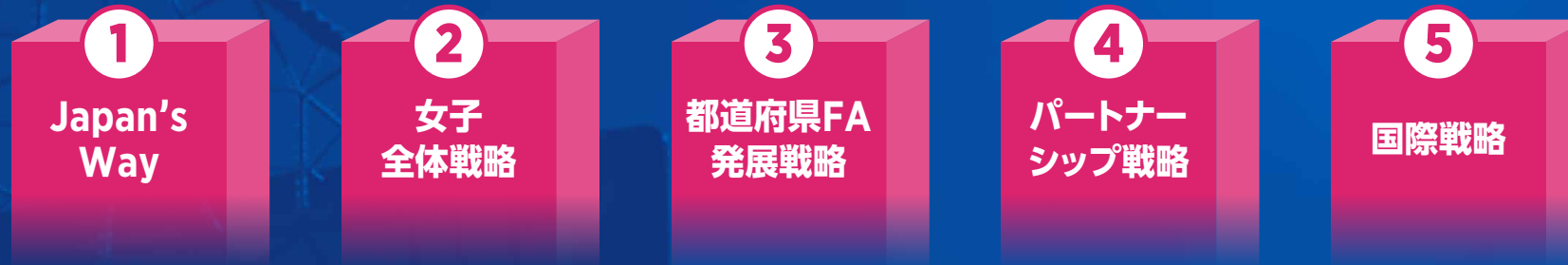
価値共創を通じて
パートナー価値を
最大化

5

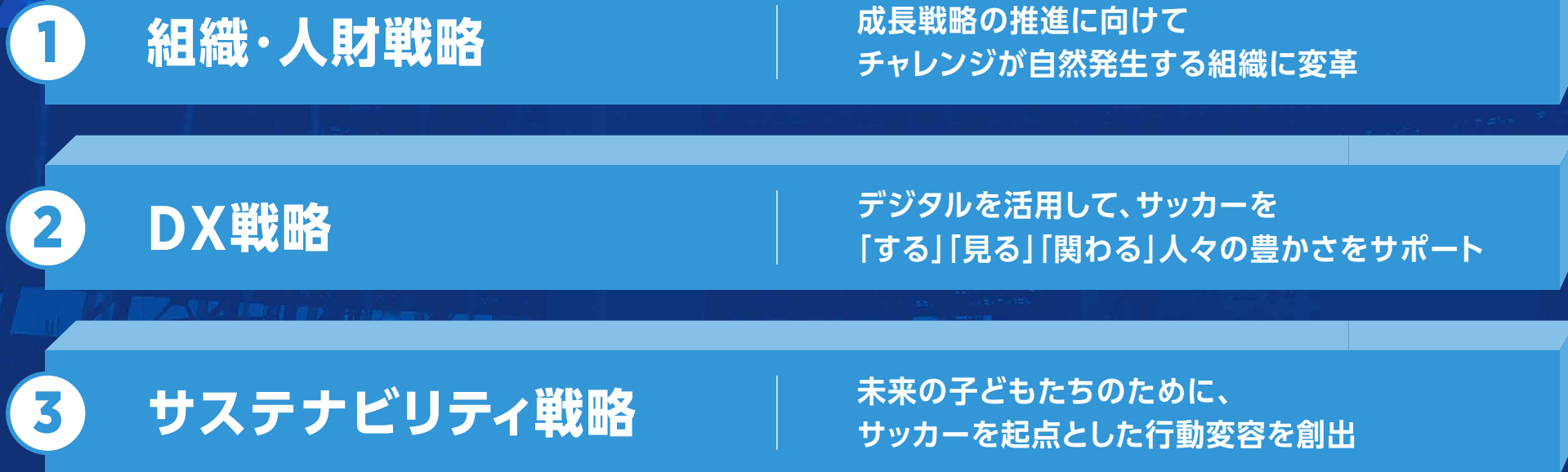
国際戦略

国際サッカーの
発展に貢献し、
国際プレゼンスを向上

成長戦略の柱

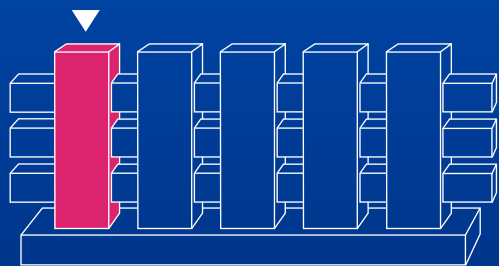


成長戦略の梁



成長戦略の柱 1

Japan's Way



Pillars of the growth strategy 1
Japan's Way



Japan's Way. を歩む



現在の状態



日本サッカーが将来目指す姿(ありたき姿)から逆算し、その道筋を示す「フットボールフィロソフィー」である「Japan's Way」を推奨していく

ありたき姿

トロフィーを掲げている姿からの逆算

Japan's Way = **そこに至る道筋**

世界一サッカーで幸せな国になる。

競技力向上と
ウェルビーイングの相乗効果が
日本サッカーを
さらに押し上げていく

日本型ダブルピラミッド

を提唱

参加する、楽しむ
サッカー

競技としての
サッカー



これまで日本サッカーが大事にしてきた

「三位一体+普及」の取り組みを継続し、
長期的な施策を打っていく

Japan's Wayで進める 7つの方向性



ユース育成

指導者養成

代表強化

普及

※「三位一体+普及」とは、代表強化、ユース育成、指導者養成に加えて、普及を大事にしていく考え方

① 「日本型ダブルピラミッド」の拡大

② 「世界トップ基準」に向けたプレービジョンの構築

③ 「スピード・強度・質」を備えた選手像の確立

④ 個別最適な育成環境を目指した「タレントID」の浸透

⑤ 「フィジカルフィットネス」を一体化したトレーニングの確立

⑥ 人生の豊かさや競技力を高める「多様な指導者パスウェイ」の確立

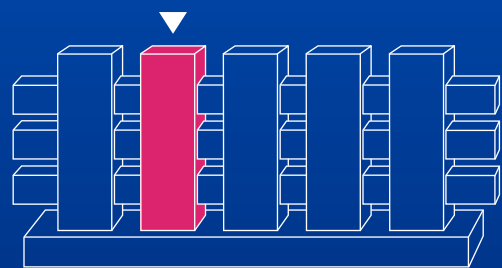
⑦ 多様性を抱き込む「アクセス・フォー・オール」の浸透

Japan's Wayの詳細



成長戦略の柱 2

女子全体戦略



Pillars of the growth strategy 2
Women's Football Strategy



© J.LEAGUE



© WE LEAGUE

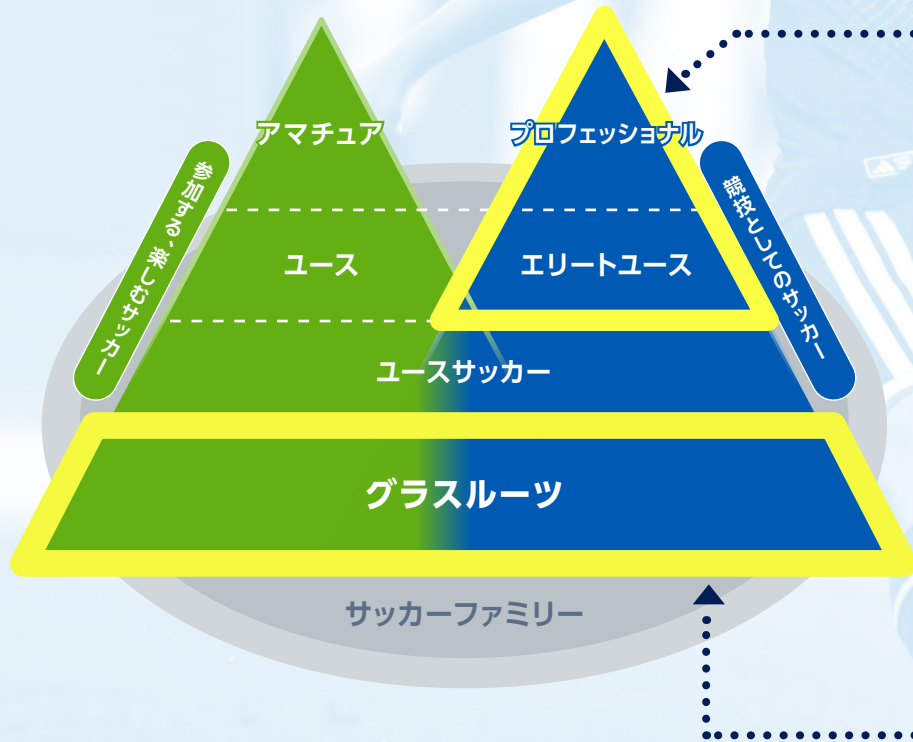


日本型ダブルピラミッドの

競技の上位環境(重点領域①)と

グラスルーツ(重点領域②)において

取り組むべき課題が存在



重点領域
①

なでしこジャパン (サッカー日本女子代表)



- ☑ 直近の世界大会の成績
 - ・2023 FIFA女子ワールドカップ…ベスト8
 - ・2024 オリンピック…ベスト8
 - ベスト4の壁が存在
- ☑ マーケティングと連動したセールス
(ブランディング観点を含む)

なでしこリーグ (日本女子サッカーリーグ)



- *アマチュアの全国リーグ
- ☑ 地域浸透度向上

WEリーグ (日本女子プロサッカーリーグ)



- ☑ “女子サッカー”の日本国内における
プレゼンス向上
- ☑ 観客数増加に向けた取り組み
- ☑ 女子プロサッカーリーグとしての
収益拡大

ユース育成 (高校生年代)

- ☑ チーム間のレベル差が顕著
(トップレベルの拮抗環境欠如)

重点領域
②

キッズ(U-10)～小学生(U-12)年代

- ☑ 体験後のつなぎ施策不足
- ☑ 女性指導者不足
- ☑ 属性傾向を踏まえた施策不足

中学生(U-15)年代

- ☑ 受皿(チーム)不足
- ☑ 女性指導者不足

競技面の成績だけでなく、
ブランディングも巧みに進めることで
市場を拡大し、

第4段階 のレベルを目指す

第5段階

成熟市場

女子サッカーが発展し、
投機を生む市場に成長

文化の壁

第4段階

高成長市場

女子サッカーの価値が高まり
市場拡大中

ブランディングの壁

第3段階

中成長市場

代表成績を契機に市場が
芽吹き始める

成績の壁

第2段階

低成長市場

男子サッカーの流れで
女子サッカー文化が台頭

第1段階

新興市場

女子サッカーの黎明期
代表チームを組成して国際競技会に参加

2031年までに目指したい
ゴールイメージ
(見るよし、するよし、成績よし)

🇯🇵 **日本は 第2.5段階**

(する文化<代表成績)

市場規模(リーグ収益)		13億円
発展要素	見る文化	代表(平均観客数) 8.4千人
		リーグ(平均観客数) 2.0千人
する文化(登録人口比)		0.1%
代表成績(FIFA Women's World Ranking)		5位

※2026年4月時点

VISION

【目指す姿】

“ 競技成績の向上と
女子サッカーの価値向上の
両輪に関わる人を増やし、
欧米先進国に比肩する
高成長市場へ到達する ”

SLOGAN

【合言葉】

覚悟を胸に、ともに挑む。
次のステージへ。

KGI

【目標設定】

競技会成績

主要国際競技会

優勝

対象大会

- ・AFC女子アジアカップ
- ・FIFA女子ワールドカップ
- ・AFC女子チャンピオンズリーグ
- ・オリンピック

関連人口

女子サッカー関連人口

×2倍

対象となる人数

- ・女子登録選手数
- ・女子登録指導者数
- ・女子登録審判員数
- ・なでしこジャパン平均観客者数(HOME)
- ・皇后杯決勝観客者数
- ・WEリーグカップ決勝観客者数
- ・WEリーグ平均観客者数

ブランド価値

女子サッカー推奨度

10ポイントUP

計測項目

- ・プレー推奨度
- ・観戦推奨度

KSF

【重要成功要因】

サッカー界
ALL



NADESHIKO
JAPAN



SAMURAI
BLUE

.WE
LEAGUE



なでしこ
リーグ
Nadeshiko League



①

リーグ・
育成年代の活躍

SUCCESS



②

する人の増加

PLAYER



③

女子・女性の
憧れの獲得

ENGAGEMENT



④

商業価値の
向上

COMMERCIAL



⑤

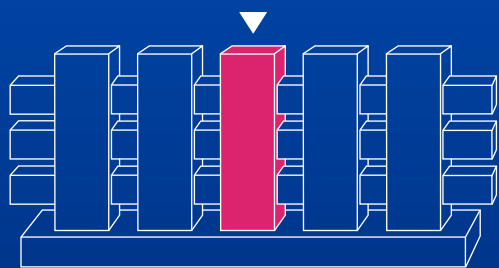
機会創出と
環境整備

EMPOWERMENT



成長戦略の柱 **3**

都道府県FA 発展戦略



Pillars of the growth strategy 3
Prefectural FA Development Strategy



都道府県サッカー協会 (FA) への
ヒアリングを踏まえ、
地域ごとに異なる課題の中から

共通する課題

を抽出した

人財の確保

人財やナレッジを
確保

マーケティング の強化

収入拡大のための
マーケティング強化

時間の確保

職員の事務業務の
時間を削減

共通課題

施設の活用

FAが保有する
施設の有効活用

ガバナンスの 強化

ガバナンスの整備・運用

都道府県FAの **経営基盤の強化** を通じて、フットボール環境を改善・向上させる

都道府県FA

経営基盤

人財



施設



財源



ガバナンス

普及活動

育成制度

講習会

大会運営

施設管理

フットボール環境

チーム
(選手・指導者)

審判員

試合会場

VISION
【目指す姿】

KGI
【目標設定】

KSF
【重要成功要因】

“

都道府県FAの
基盤強化を通じて
誰もが、どこでも、
アクセスできる
フットボール環境
を実現する

”

人財

各FA常勤者数*1

平均3名以上
19FA » 全FA

財源

自主財源率*2

平均60%以上
17FA » 全FA

※データは2023年10月時点

*1 常勤者数 調査対象期間における常勤事務局員の人数
(事務局長を除く)

*2 自主財源 各FAの「登録料+事業+施設利用+その他」
の合計収入金額

1

人財確保・
ナレッジ提供
TALENT



2

事務業務の
時間削減支援
PRODUCTIVITY



3

マーケティングの
活動支援
MARKETING



4

施設の活用支援
FACILITIES



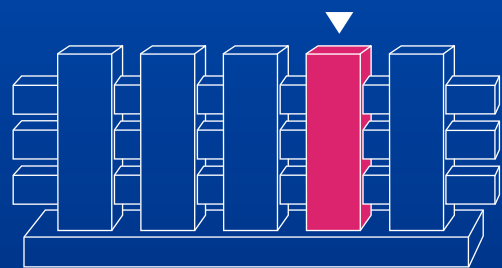
5

ガバナンスの
強化支援
GOVERNANCE



成長戦略の柱 4

パートナーシップ 戦略



Pillars of the growth strategy 4
Partnership Strategy



サッカー版の

「三方よし」を推進し、
共通課題の解決を進めているが、
それをさらに拡大させていく
必要がある

社会

(サッカーファミリー)

気候変動への対応
高齢、少子化時代への変化
地域コミュニティの複雑化・希薄化など、
社会の大きな変化

共通課題を
ともに解決

JFA

日本代表による国際競争力の向上
少子化に伴う登録人口の減少圧力
ガバナンス・コンプライアンス順守への対応

パートナー企業

消費者の生活環境の変化
社会的責任・ESG*推進の重要性の高まり
パートナーシップ目的の多様化

*ESG 企業が環境(Environment)、社会(Social)、
ガバナンス(Governance)の3要素を経営や投資判断に
組み込み、持続可能な企業価値の向上を目指す取り組み



既存の価値



唯一無二の

パートナーシップ価値を
提供していく

**権利/
メニュー開発**
活用機会の拡充

**パートナーシップ
価値向上**

**社会課題への
アプローチ**
より良い社会の実現

大きくなった価値を通じてフットボールへ再投資

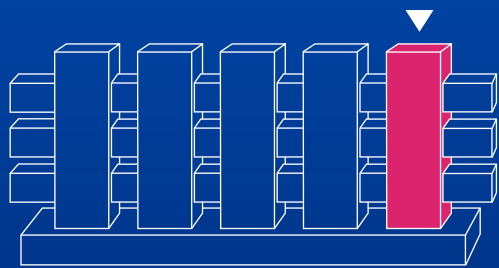
提案力の向上
個社の事情に応じた
提案

**ユニバーサル
アクセスの確保**
誰もが代表戦を
見られる環境づくり



成長戦略の柱 5

国際戦略



Pillars of the growth strategy 5
International Stage



「国際社会への貢献」や「2050年までに
FIFAワールドカップ開催・優勝」を掲げる中で、
国際舞台でのプレゼンス向上が必要である

JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する

JFAの約束2050

1. サッカーを愛する仲間=サッカーファミリーが
1000万人になる
2. FIFAワールドカップを日本で開催し、
日本代表チームはその大会で優勝チームとなる

国際観点での
ポイント



国際大会の開催

国際機関への
人財輩出



各国協会への
協力活動

世界のサッカー界をリードするアジアサッカー、
その牽引である日本、
という立ち位置を確立することで、
国際サッカー界におけるプレゼンスを向上させる

世界をリードするアジアサッカー*
それを**“牽引する日本”**を目指す

* AFCのビジョンより抜粋

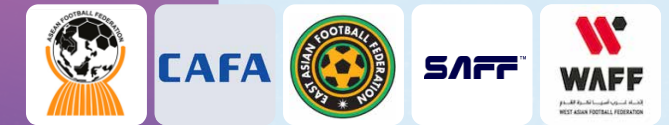
国際サッカー



アジアサッカー



地域サッカー連盟



日本サッカー

- ・国際大会の開催
- ・国際機関への人財輩出
- ・各国協会への協力活動



各種リーグ



VISION
【目指す姿】

KGI
【目標設定】

KSF
【重要成功要因】

“

**国際サッカーの発展に
貢献することで
JFAのプレゼンスを
高める**

”

国際リレーション



トップレベルの国際活動人口



国際サッカー界への協力



1 国際交流
INTERACTION



2 アジア協力
DEVELOPMENT



3 国際大会・イベントの
招致・開催
HOSTING



4 日本人の国際活躍
GLOBALISE

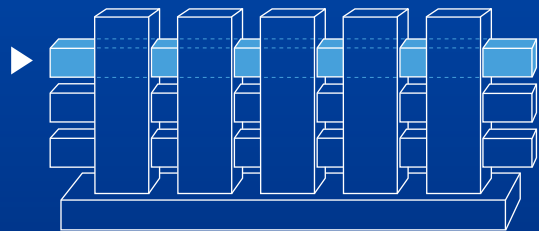


5 日本代表の活躍
EMPOWERMENT



成長戦略の梁 **1**

組織・人財戦略



Beams of the growth strategy 1
Organisational and Human Resources Strategy



チャレンジが 自然発生している組織



実現に向けたポイント

1 自責で物事を
考えること



2 継続的な成長志向
を持つこと



3 互いに
支え合うこと



チャレンジが自然発生している組織の実現に向けて、5つの要件に沿った **人事施策** を講じていく

実現に向けたポイント

①

自責で物事を
考えること



②

継続的な
成長志向を
持つこと



③

互いに
支え合うこと



これからのJFA

互いの責任・役割の明確化

志の発掘・醸成支援

JFAウェイ*の徹底・浸透

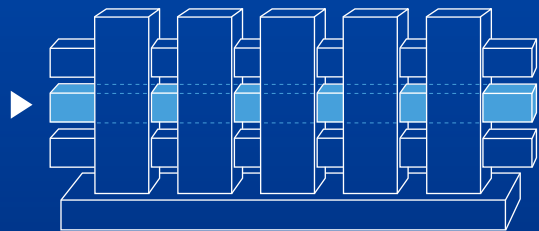
成長支援と相互理解の促進

フェアネス重視(公平・公正・透明)

*JFAウェイ JFAの役職員としての行動指針。現在と未来のサッカーファミリーのため、役職員は7つの指針に基づき、日々の活動において自分自身で考え、行動を起こす。

成長戦略の梁 **2**

DX戦略



Beams of the growth strategy 2
Digital Transformation Strategy



サッカーファミリーの満足度アップに向けて、

「デジタルの活用」

余地が十分にある



する

個人・チームの成長や軌跡を



選手

- ✓ もっと成長したい
- ✓ 成長を実感したい
- ✓ 自分に合うチームを見つけたい など



指導者

- ✓ 良い指導方法を見つけたい
- ✓ データ分析をしたい
- ✓ 時には相談したい など



審判員

- ✓ 競技規則を正しく学びたい
- ✓ 審判機会がほしい
- ✓ 審判歴を残したい など



見る

個別ニーズに応えるサービスを



代表コアファン

- ✓ 選手と交流したい
- ✓ 自分の声を届けたい
- ✓ 同じ推し仲間とつながりたい など



代表ライトファン

- ✓ ルールや見どころを知りたい
- ✓ 選手の特徴を知りたい
- ✓ 代表を応援している感を出したい など



Jリーグファン

- ✓ Jリーグも代表も好きに行き来したい
- ✓ 代表選手が応援クラブ出身ということ周りに自慢したい など



関わる

運営・管理しやすいツール化を



FA・連盟関係者

- ✓ 大会記録を残したい
- ✓ 効率的に大会運営したい
- ✓ 問い合わせ件数を減らしたい など



チーム運営者

- ✓ 登録手続きの負担を減らしたい
- ✓ 良いコーチを探したい
- ✓ 施設予約を簡素化したい など



保護者

- ✓ 子どもの成長や通算記録を知りたい
- ✓ 子どもに合うチームを探したい
- ✓ 改善提案したい など

全ては、サッカーを
「する」「見る」「関わる」人々が
生涯にわたり、

「より楽しむ」

ために…



ID連携

サービス
品質向上

フットボールDX

大会記録や能力分析等を通じた
選手・指導者・審判員の成長サポート



体験価値向上DX

日本代表限定情報・コンテンツを通じた
代表ファン・サポーターの共感創出



業務改善DX

登録基幹システム改修を中心とした
運営・チーム責任者側の利便性向上



新たな
価値提供

パートナー

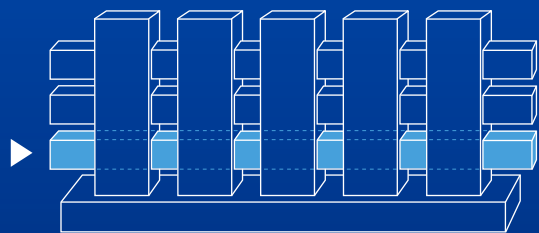
データ蓄積・分析

データ利活用

データ利活用

成長戦略の梁 **3**

サステナビリティ 戦略



Beams of the growth strategy 3
Sustainability Strategy



地球環境

気候変動



生物多様性
損失



孤独・孤立



熱中症



部活動の
地域連携



物価高騰



日本社会

スポーツ界や
サッカー界が抱える問題

JFAの抱える 課題



FIFAワールドカップ優勝



女子サッカー発展



定常収支バランス



ジェンダー格差



少子高齢化



暴力・暴言



登録者の維持・増加



リスペクト啓発



資源枯渇



環境汚染



社会保険料
負担増加



経済的格差



未来を担う子どもたちに、 今より良い状態で サッカー環境をつなぐ



VISION

【目指す姿】

KGI

【目標設定】

MATERIARITY × KSF

【重要課題×重要成功要因】

“ 未来を担う
子どもたちに、
今より良い状態で
サッカー環境を
つなぐ ”

サッカーを起点とした 行動変容の創出

「行動」の変化

全てのKSFにて

平均74%

≧
80%

2025年サッカーファミリー調査にて
「とてもそう思う」「そう思う」と回答した割合



アスパズ!

サステナビリティ活動総称

サッカー環境の基盤づくり

環境 PLANET

1. 気候変動緩和対策
2. 熱中症・落雷対策

人権 PEOPLE

3. 暴力・差別等根絶
4. 子どもの体験格差解消
5. ジェンダー平等
6. 共生社会の実現

サッカーを通じたウェルビーイングの創造

健康 WELLBEING

7. 多世代の心と体の健康づくり

教育 EDUCATION

8. 夢を描く教育

地域 COMMUNITY

9. 持続可能な地域
コミュニティへの貢献

ガバナンス